

1

花火

②

細める

③

遠足

④

地方

⑤

多少

2

1

A

ア

B

エ

C

ウ

2

毒

3

②

オ

ス

③

メ

ス

4

き

〔順不同・完答〕

5

ア

2

イ

1

ウ

2

3

1

ア

2

イ

3

ん

4

④

ウ

⑦

イ

5

I

が

っ

か

り

II

は

げ

ま

す

6

エ

7

哲男

配 点

1

各2点×5＝10点

2～3

各5点×18＝90点

<計>100点

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①は「火」の書き順に注意しよう。左右の点を先に書いて、「人」の部分はあとに書くのである。②「細」にはほかに「こまーかい」といった訓読みがある。覚えておこう。③「遠」の「しんにょう」は二画目と三画目をつなげてわっかのようにしてしまわないように気をつけよう。④「方」の書き順に注意しよう。はなから画が三画目で、はらう画が四画目である。⑤「少」を「小」とまちがえないように気をつけよう。「多い」の反対は「少ない」であり「小さい」ではない。漢字は形や音だけで覚えるのではなく、意味も合わせて覚えるようにしよう。

②

- 1 A (A) 「大きなイソギンチャクに流れつく」とあり、(A)にはどのくらい大きいのかをあらわす「ひととき」か、どんなふうに流れついてきたのかをあらわす「うどん」がはいりそうだとわかる。二つ以上はいりそうな場合は勝手に決めてしまわずにいったんおいておき、ほかの選択肢を考えるようにしよう。
 - B (B) 「もぐりこみました」とあるので、どれだけでもぐりこんだのかをあらわす「うどん」か、どのようにもぐりこんだのかをあらわす「すっぱりと」がはいりそうだとわかる。
 - C (C) 「食べられてしまいます」とあるので、どんなふうに食べられるのかをあらわす「うどん」がはいり。(C)で「うどん」を使うので、(A)には「ひととき」が、(B)には「すっぱりと」がはいりと決まる。
 - 2 魚がイソギンチャクの手にある「なにで」気をうしなうのかと考えて本文をたどっていくと、①の三行あとに「イソギンチャクは、毒で気ぜつさせた魚を」とあるので、①には「毒」がはいるとわかる。
 - 3 大きくなるにつれて大きさに差がつきオスとメスにわかれていくということは、子どものカクレクマノミにはまだメスとオスの違いがないということになる。
 - 4 「数えきれない」というのは単に「数が多いこと」だけでなく、「とても数が多いこと」を意味している。
 - 5 ア 本文三行目に「たいでいの魚は、ふれただけで気をうしなってしまう」とある。「どんな魚も」気をうしなうわけではない。
- イ 本文うしろから二段落目の「いろいろな魚のえさにな」ということばに注目したい。えさになるということはつまり食べられるということである。
- ウ 本文うしろから三段落目に注目できただろうか。卵を産むのはメスだが、生まれてくるまでのあいだ、せわをするのはオスのやくめなので正しくない。

③

- 1 母親が「テストでいいんがとれますように」や「うちの子はよくできる子だと、先生にみとめてもらえますように」と願うのは、自分の子どもに対する「期待」のあらわれである。
- 2 親から期待されることはありがたいことだと思いつつも、それにこたえなければならぬプレッシャーを子どもが感じているという複雑な気持ちを読み取れただろうか。母親に対して苦勞している哲男が「そう、そう」とうなずいていることから、ふたばおじさんも苦勞していたと読み取れる。「苦勞している」にもつとに近いのは、イ「困ったものよ」である。自分の母親からほうっておかれていくわけではないので、エ「さびしいものよ」は不適当である。
- 3 「ちんぷんかんぷん」は「さっぱり意味がわからない」という意味である。
- 4 ④の前後の内容から、ふたばおじさんのかあちゃんは自分の子どもが0てんをとってきたことにはらを立てて先生に電話をかけたと考えられるので、「怒りで興奮する」という意味の「頭にきて」が適当である。⑦のあとに「びっくりです」とあるので、「おどろいて目を大きく見開く」という意味の「目をまるくする」が適当である。
- 5 問いの文言から、子どもが0てんをとったふたばおじさんのかあちゃんが「どのように」感じて、「なんのために」かんぱいをしたのかと考えて本文をたどっていくと、——線⑤の三行あとでふたばおじさんが「がっかりしたかあちゃんな、かんぱいをして元気をだしたのさ。自分をほめますかんぱいよ」と言っているの、Iには「がっかり」、IIには「ほめます」がはいるとわかる。
- 6 ふたばおじさんは、自分の母親が「かあちゃん病」にかかってしまった過去をふりかえり、それをわらって話しているので、プラスのことばがはいることから、エ「なつかしそうな笑顔」が適当である。
- 7 ふたばおじさんが哲男に対して「(テストを) かあちゃんに見せて、もんくをもらっておきな」と言っているの、哲男がテストを見せる相手である——線⑧の「かあちゃん」は哲男の母親とわかる。